

# 希少感染症に関する調査研究

【保健衛生室 保健衛生部門】

## 1 はじめに

ツツガムシ病とは、リケッチア（*Rickettsia tsutsugamusi*）を病原体とし、これを保有するツツガムシの幼虫にヒトが刺されたときに起こる急性の感染症である。古くは東北、北陸地方の風土病（古典型）として知られていたが、新型ツツガムシが出現し全国的に患者発生がみられるようになってきている。鳥取県では、年間1～2人の患者発生がみられている。リケッチアツツガムシの浸淫状況を把握するため、鳥取県における住民のリケッチアツツガムシ抗体保有状況を調査したので報告する。

## 2 調査方法

### 1) 調査期間

平成14年4月～平成15年3月

### 2) 検査材料

県中部の医療機関から分与された血清

### 3) 検査方法

間接蛍光抗体法を用いて、リケッチアツツガムシ標準3株（Karp, Gilliam, Kato）に対するIgG抗体検出を行った。

## 3 調査結果

- 1) 表1に年齢群別検査状況を示す。調査対象血清は合計90件となった。陽性件数は30～39歳で1件、70～79歳で3件であった。抗体保有率は全体で4.4%、70～79歳の年齢層で23%であった。
- 2) 表2に陽性検体の感染株を示す。1検体はKarp株とKato株で抗体検出がみられ、他3検体中2件はKarp株、1件はGilliam株でIgG抗体が検出された。陽性検体数が少ないが、Karp株に抗体検出が見られる傾向があったことから、Karp型を保有するツツガムシの分布が予測される。また、新型

ツツガムシによる患者発生が各地でみられていることから、従来の標準3株に加え、新型株を用いた調査の必要がある。

表1 年齢群別検査状況

年齢群	検体数	陽性件数	抗体保有率(%)
0～9	21	0	0.0
10～19	14	0	0.0
20～29	9	0	0.0
30～39	15	1	6.6
40～49	9	0	0.0
50～59	6	0	0.0
60～69	1	0	0.0
70～79	13	3	23.0
80～	2	0	0.0
計	90	4	4.4

表2 陽性検体の感染株

検体番号	標準抗原		
	Gilliam	Karp	Kato
1	—	+	+
2	—	+	—
3	—	+	—
4	+	—	—

## 4 まとめ

- 1) 県中部における抗体保有率は低かった。ツツガムシ分布状況を把握していくために今後は検査範囲を県域全体に広げていく必要がある。
- 2) 新型株であるKawasaki株、Kuroki株についても検討する必要がある。
- 3) ツツガムシ予防対策のために今後の患者発生動向に注目し、迅速な情報提供をしていくことが重要である。